

新学術創成研究科 融合科学共同専攻  
【授与する学位】博士（工学）

<p style="text-align: center;"><b>大学（大学院）の目的</b></p> <p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;"><b>学類（研究科）の教育研究上の目的</b></p> <p>新学術創成研究科は、革新的かつ新しい学問・産業の分野・領域の創成につながる異分野融合的な研究による成果や社会との往還を基盤に大学院教育を展開することで新たな学術の創成に寄与し、学際性・総合性・国際性を有する研究者や産業人等を養成することを目的とする。 博士後期課程融合科学共同専攻は、グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に、科学技術イノベーションの基盤を生み出し、社会実装できる博士人材を養成する。</p>
--	--

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<p><b>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</b></p> <p>「グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に科学技術イノベーションの基礎を生み出し、社会実装できる博士人材」を育成することを教育目標とする。 “科学を融合する方法論”を探究・実践した上で、「学修成果」として下記に掲げる1～6の資質・能力（コンピテンス）を修得するとともに、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に「博士（工学）」の学位を授与する。</p>	<p><b>【教育課程編成に関する基本的考え方】</b></p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を修得するため、“課題解決志向型”の教育内容・手法を重視し、学生が教育プログラムの履修を通して身に付けるべき要素を踏まえた体系的なカリキュラム（教育課程）を編成する。</p>	<p><b>【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】</b></p> <p>修士又は博士前期課程等で修得してきた分野の専門知識のほか、専門が異なる分野にも多角的・論理的思考力をもって他者との協奏的活動に取り組み、グローバルに活躍しようとする姿勢を備え、複雑で困難な問題を分野融合の力で発見及び解決し、社会の発展のための新しい高度な価値を積極的に創造しようとする強い意欲をもつ者を受け入れる。</p>
<p><b>【学生が身に付けるべき資質・能力】</b></p> <p>(1) 科学技術イノベーションに関連する社会課題を自ら発見し、かつ構造化した上で課題解決できる能力 (2) 自分の専門分野に関する最先端の知識と実践力 (3) 他分野の知見、技術を自分の専門分野に活用できる能力 (4) 国際会議や海外共同研究において、外国語で研究成果を発表し議論できる能力 (5) 科学・技術・生命に対する実践的な研究者倫理観 (6) 自分の専門分野を核とし、新たな知を創出できる能力</p>	<p><b>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</b></p> <p>「グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に、科学技術イノベーションの基盤を生み出し、社会実装できる博士人材」を養成すべく、前期課程における基礎能力を素地とした上で、さらに科学を融合する方法論を探究・実践することにより、社会におけるニーズや動向に応じて、科学技術イノベーションに関連する社会課題を自らが発見し、課題解決ができる「実践的課題解決能力」を修得させるため、以下の講義及び研究室教育による学修を行う。</p> <p>&lt;講義による学修&gt; 以下の科目群を体系的に構成・開講する。 (1) 分野融合セミナー・グループワークや異なる分野における研究等の異分野融合を主とした異分野「超」体験科目 (2) 社会のニーズを踏まえた実践的教育や国際性の涵養を行うための社会実装科目 (3) 自分の専門分野に関する知見を深化させるための体系的な専門科目</p> <p>&lt;研究室教育による学修&gt; 以下の方針の下、研究支援科目を開講する。 (1) 他分野との積極的な交流を促すため、主任研究指導教員1名（本籍大学の教員）及び副主任研究指導教員2名（うち1名は相手大学の教員とする。）の3名からなる指導体制とする。 (2) “科学を融合する方法論”を自ら探究・実践し、異なる知見や観点から新たなアイデアを創出させ、自身の専門分野に関する知見を深化し、自身が設定した研究課題を進展させるために必要な能力を修得させる。 (3) 専門分野に関する高度な知識と実践力はもとより、研究者としての倫理観、国際的発信力を意識した教育を行う。</p> <p>上記の学修成果を踏まえて、特定の研究課題に関する学位論文の作成について指導を行う。</p>	<p><b>【求める人材】</b></p> <p>修士又は博士前期課程等で修得してきた分野の専門知識のほか、専門が異なる分野にも多角的・論理的思考力をもって他者との協奏的活動に取り組み、グローバルに活躍しようとする姿勢を備え、複雑で困難な問題を分野融合の力で発見及び解決し、社会の発展のための新しい高度な価値を積極的に創造しようとする強い意欲をもつ者を受け入れる。</p>
	<p><b>【学修成果の評価】</b></p> <p>(1) 講義による学修及び研究室教育による学修では、明示された成績評価基準に基づいて、成績評価を行う。 (2) 提出された学位論文は、明示された学位論文評価基準に基づいて評価を行う。</p>	<p><b>【選抜の基本方針】</b></p> <p>入学者選抜試験は構成大学ごとに行うものとし、上記の求める学生像を踏まえて、修士課程、博士前期課程等で行ってきた研究内容及び今後の研究計画に関する口頭発表等により、修士課程、博士前期課程等で修得してきた分野の基盤的専門知識に加え、分野融合による社会の発展のための新しい高度な価値を創造しようとする意欲を評価して選抜する。</p>
		<p><b>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</b></p>